



◀予選から白熱し、上の句が読まれるとすかさず下の句の札を取る児童達

多久市論語カルタ大会が11月14日、西溪中学校体育館で開かれ、市内外から

参加した139人が熱戦を繰り広げました。

16回目の今大会は、初めて幼稚園・保育園の部を設け、こばと保育園の園児12人が参加。「全部覚えてる！」という園児もいて、小学生・中学生にも負けない速さで札を取っていました。

また、埼玉県西武学園文理小学校児童や一般の部では奈良県などからの参加もあり、小学2学年の部と一般の部では、みごと道場破りを果たしました。

各部の優勝者は次のとおりです。（敬称略）

幼稚園・保育園＝糸賀陽希（こばと幼稚園）

1学年＝田島廉太（中部小）

2学年＝江間悠将（埼玉県西武学園文理小）

3学年＝永井秀太（南部小）

4学年＝本山遥菜（東部小）

5学年＝糸賀希恵（南部小）

6学年＝副島遼（中部小）

中学生＝井上明子（東部中1年）

一般＝井上洋子（唐津市）

市内外の139人が熱戦を繰り広げる

多久市論語カルタ大会

サッカーを楽しもう！助け合いや協力の大切さも実感！

サガン鳥栖の出前サッカー教室

佐賀県プロサッカー振興協議会の事業で、株式会社サガン・ドリームスの協力を得た『サガン鳥栖の出前サッカー教室』が10月26日、緑が丘小で行われました。J2サガン鳥栖のスクールコーチ井上裕介さんら4人が5、6年生89人にサッカーの楽しさを指導しました。

まずは、「こんにちは！」と元気いっぱいのあいさつと握手を行い、楽しい雰囲気開始。握手や表情だけで誕生日を当てるゲームでは、相手に意思を伝えることの難しさや伝わったときの喜びを体験しました。チームによる『だるまさんがころんだ』やチームメートみんながゴールキーパーとなって、ゴールを守るゲームも行いました。

児童は、「ゲームを通じて、仲間と助け合う中で絆が深まった」や「協力する事の大切さを知った」と話し、サッカーの楽しさだけでなく、全員が同じ目的に向かって助け合いや協力することの大切さを学んだ教室となりました。



▲手をつないだみんながゴールキーパー。協力してゴールを守りました！

## 佐賀たばこ販売協同組合 小城多久支部が環境美化活動

10/26

佐賀たばこ販売協同組合小城多久支部（大坪幸佑支部長）の12人が、「ひろえば街が好きになる」と書かれた緑のエプロンと帽子を身につけ、市役所付近から北多久郵便局までの国道と県道沿いの環境美化活動を行いました。

「地域社会に貢献を」と毎年続けているものです。



## シルバー人材センター ボランティア活動

10/25

シルバー人材センターでは、毎年10月のシルバーの日に合わせて清掃ボランティアに取り組まれています。今年は、会員36人が中多久駅から市役所周辺までのゴミひろいを行いました。

おおむね60歳以上の高齢者で組織するシルバー人材センターは、庭木の剪定や草むしり、公園の清掃などを行う事業所で、会員募集中です。詳しいお尋ねは、多久市社会福祉協議会 シルバー人材センター（☎75-4787）へ。

